

ベンケイガニ類のゾエアの放出行動

村岡健作

Note on Spawning of Sesarmid Crabs

Kensaku MURAOKA

ベンケイガニ類がゾエアを放出するために海岸や川岸に集まることはよく知られている。県下でこの放出行動を観察できる場所としては三浦半島は有名で、以前には黒崎や三戸などで観察することができた。しかし、最近では都市化の波にのり、半島の海岸や河川等は整備され、ベンケイガニ類が生息できるような場所も数少なくなってきた。そのため、カニがいち時に多数集まってゾエアを放出できるような場所もおのずから限定されてしまい、このような観察場所を探すのが困難になってきている。1979年7月に三浦半島の海岸で、ベンケイガニ類が1箇所に多数集まってゾエアを放出しているのを甲殻類学会員の佐藤晋氏が観察された。筆者は同年8月に同氏の案内で、その行動を観察することができたので、写真を付して紹介したい。

ベンケイガニ類のゾエアの放出行動を観察した場所は横須賀市長井町の荒崎海岸である。この海岸の潮上

帯は付近の崖から浸出した清水で湿地化した所もみられ、このような場所には背丈ほどの草本類も生じ、ベンケイガニ類が生息するには適した環境を備えている。観察した日時は8月9日の午後の満潮時(旧暦17日の大潮で、満潮時刻は逗子で18時20分)で、波も静かで、天候も良好であった。海岸や波打ちぎわには日暮れとともに、ベンケイガニ類が多数出現したが、そのピークは19時前後で、個体数は約450~500を数えた。抱卵した雌ガニはいずれも波打ちぎわの岩場で体を半分ほど水に浸してゾエアの放出を行なった。放出行動は1時間ほど観察されたが、個体数は徐々に減少し、20時前後には岩場から離散した。出現したベンケイガニ類はアカテガニ *Sesarma (Holometopus) haematocheir* (DE HAAN) とベンケイガニ *Sesarmops intermedium* (DE HAAN) が主で、このうち、アカテガニが2/3以上を占めていた。雌雄の比は雌ばかりでなく、雄もわずかではあるが岩場に見出された。他に、カクベンケイガニ *Sesarma (Parasesarma) pictum* (DE HAAN)、クロベンケイガニ *Sesarma (Holometopus) dehaani* (H. MILNE EDWARDS) も出現したが個体数は3~4個体であった。なお、同時刻には潮上帯の砂礫地でベンケイガニ類の抱接行動も5例ほどみられた。

参考文献

酒井恒 1980 蟹 その生態の神秘 講談社 東京
(神奈川県立博物館)

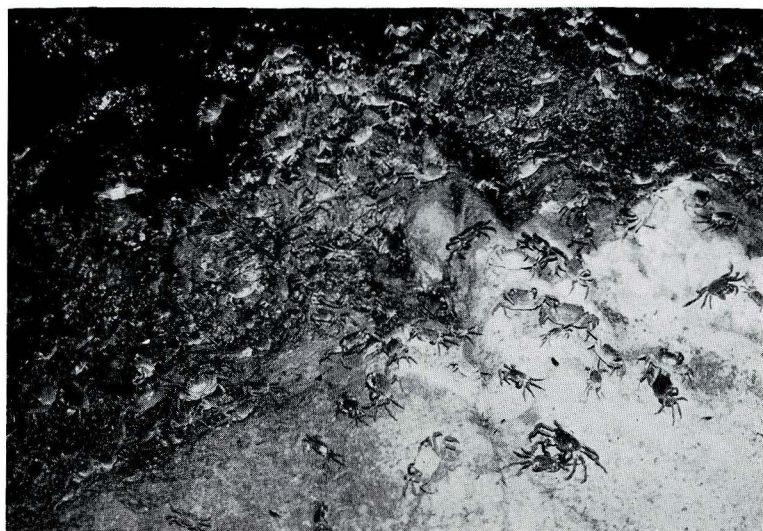


図 1. ゾエア放出のため海岸に現われたベンケイガニ類